

エゾユキウサギ

なんとも可愛い写真です。支笏湖 CGC の森の育林草刈作業中に出あって捕まえた仔ウサギです。ウサギは落葉広葉樹の植苗を食害する困った存在なのですが、こんな写真を見ますと憎む気にはなれません。後期高齢者になりたての酒井さんにヘルメットを被せられて捕らえられたとのことですから、よちよち歩きの幼児のような仔ウサギでしょう。ゴム手袋を透してすっごく熱い体温だったと驚いたのは西野さんでした。2012年6月12日の出来事でした。



昔、雪の上の新しいウサギの足跡を追跡したことがあります。小さな丘を一回りさせられてなんと元の場所に戻されました。おちよくられているのが明らかなので追跡を諦めたことが思いだされます。

エゾユキウサギは北海道に住む野生のウサギです。牧草地で出あったことがあります、その逃げ足の速さはまさに「脱兎」のごときものでした。時としてカンガルーのように後肢だけで走ります。あっけにとられて見送ったものでした。

この時期は夏毛ですが、冬毛は雪に対しての保護色で白毛となります。澄川の森でも足跡は何時でも見られますが、本体を見ることは至難であります。キツネもタヌキも棲む森で生き残っているのですから、只者ではないことが理解できます。

「うさぎ追いかの山、小鮒釣りしかの川……」の歌詞で始まる「ふるさと」は故郷を遠く離れた身分としては身につまされる歌です。中学生時代の遠足で飛び出したウサギを大勢で追いかけたのも懐かしい記憶です。



森林ボランティアの作業として一番の過酷な肉体労働は夏の育林作業の草刈です。快晴のかんかん照りの下では熱射病の危険すらあります。2012年6月12日と13日の支笏湖 CGC の森での作業は、幸いにも異常低温で寒い日でしたので、汗もかかずに助かりました。

←成獣